平成 23 年12月 1 日
第 55 号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 原田憲一郎
電話 972・7602

水路改修工事始まる


水路路盤を整地しベンチフリュームを正確に設置

八方原の圃場の実りを支えてきた配水路、40年間大きな改修もなく働いてくれましたが、さすがに傷んだところが目立ってきました。

今年度から始まった「施設の長寿命化対策」への交付金を活用した改修工事を年次的に行うこととしています。本年度の対象は一番北側の農道の両側の水路です。対象延長はは約７００メートルありますが、その一部（延長約１５０メートル）の改修をすることとなりました。現地の調査を行うと、本流に近いところほど、傷みが大きいことが分かりましたので、予算の範囲で今回の工事場所を決めさせていただきました。

改修にあたっては詳細な測量を行いました。東から西に非常に緩やかな勾配となっており、問題となるような大きな変化は見られませんでした。従って今までの底部の高さを基準に作業を行います。既存のコンクリートを撤去するために破砕しましたが、外側は摩滅していても内部はしっかりしていたことも分かりました。

現在農業用の水路についてはベンチフリューム（U字型溝）が基本とされていますので、新たな水路はU字型溝となります。従来の水路の形とは少し異なりますが、十分な水流を確保できます。

今年もデカ芋くん



市子ども会小郡支部では、各地区子ども会にさつまいもの苗の配布を行っています。

６月にそれぞれの畑に植えたさつまいもは、半年間子どもたちや保護者のお世話で大きく育っています。秋に収穫したさつまいものコンテストの結果がおごおり文化祭の会場で発表されます。毎年大きさ部門で優勝を飾る八方原地区、今年もチャンピオンとなりました。やったね。

冬の花「ヴィオラ」に衣替え


彩り、配置を考えながら植栽


半年間咲き続けてくれた花々

地域の環境向上に役立てようと活動が続いている「景観形成花壇」。夏の花「サルビア」などから、冬の花「ヴィオラ」に植換えを行いました。

冬の寒さに耐えて、春まできれいな花を見せてくれます。頑張ってね。

新型機導入で作業も楽しくGO！


水の通り道があまり地中深いとトラクターが進まない

農事組合法人八方原では麦作に本格的に取り組みます。冬前の圃場に新たな機械が2機導入されました。

麦作は湿潤の土地を嫌います。そこで水はけを良くするための新機軸として新たな装置を持ったトラクターが登場しました。

地中に水の通り道を造る機械です。地面から数十センチ下で、直径数センチの円錐型の金属をトラクターが力強く引き回します。

またこのトラクターには種まきの装置も取り付けられます。麦のタネをほんの僅かに土を起こして撒き、土をかぶせて、ローラーでそっと押さえるという一連の作業をこなします。

もう一台は「管理機」と呼ばれ、病虫害から作物を守るための防除を安全に効率よく行う機械です。

必要な箇所に必要な分だけの薬剤を的確に散布するために長い腕を左右に広げて畑の中の畝に沿って自走し、作業を行います。

そのために全体がとても高い位置に置かれており、えらく背の高い機械となっていました。使わない腕は折り曲げて上を向けてあるので余計に背の高いものになっています。ニックネームは「愛さい号」です。


この長い腕にたくさんのノズルが装着されている

自由貿易はどう影響するか

「TPP（環太平洋パートナーシップ）交渉に参加する」野田総理大臣は明言しました。内外からの賛否両論が渦巻く中、我が国の舵を大きく切ったように見えます。

国際的な貿易連携には様々な形があり、それぞれの国が自国が優位になるように必死の攻防を続けています。韓国と米国の自由貿易協定を巡って韓国の国会が混乱しているのはご承知の通りです。

今回のTPPは貿易における米国と中国のせめぎ合いとも受け取れます。日本はこの狭間でいかにうまく立ち回るかが、問われるような気がします。

このTPPを考える際によく引き合いに出されるのが北米自由貿易協定（NAFTA）です。カナダ、アメリカ、メキシコの貿易の障壁をなくというこの枠組みによって、カナダの農産物生産は大きく向上しましたが、その生産者は殆どアメリカ資本に取って代わられました。また、メキシコの小規模農家は壊滅したといわれています。

今からの交渉がどうなるのか予断を許しません。しっかり見守って参りましょう。

あれもこれもメイドイン八方原

おごおり文化祭は11月2・3日行われ、3日のバザーにはたくさんの市民が会場を訪れ、思い思いの買い物を楽しみました。

八方原地区からは生改連さんが「うどん」を、ふれあい朝市グループは「生鮮野菜」の販売を行いました。


↑うどん一丁！・・・まいどあり～↓



今回も完売しましたが、野菜は精魂込めて作ったもの、うどんもしっかり研究した自慢の八方原の味。地域のアピールにもなったのではないでしょうか。皆さんお疲れさまでした。